

活用ナビ

①【ねらい】日本で発生している自然災害についてわかる。

②●資料の日本地図を読み取りましょう。地図には自然災害の種類が書かれています。どのような種類があるでしょうか。
※地図のどこを見ればよいか確認してから書かせる。

②●自然災害ではどのような被害が発生しているでしょうか。ア～エの写真から読み取りましょう。
※写真だけではなく、その説明もヒントになることを伝える。
※自然災害で被害を受けた児童がいる場合には、配慮する。

③●日本のどのあたりで、どのような自然災害が発生しているでしょうか。
●地図上の□に自然災害の種類ごとに色をぬったり、マークを書いたりしましょう。
※色やマークは教師が指定してもよいし、子どもが各自決めてもよい。

③●「主な火山」と「大きな地震の震源」の記号を確認しましょう。
●どのあたりに、どのような自然災害が発生しているのか書きましょう。
※「都道府県名」や「〇〇地方」以外の表現で構わないことを伝える。

④●日本の自然災害の様子についてノートにまとめましょう。考えたことも書きましょう
※日本は世界でも自然災害が多い国であることを教えた。

5年-18

5-1 自然災害とともに生きる
自然災害と国土の自然条件 P204～P205

5年 組 番
名前

①【ねらい】日本で発生している自然災害についてわかる。

②【基本】資料の日本地図を読み取ろう。
・地図には自然災害の種類が書かれている。どのような種類があるだろうか。

地震災害、雪害、風水害、津波災害、火山災害

・自然災害ではどのような被害が発生しているか、ア～エの写真から読み取ろう。

- ・地震災害では道路や建物がこわれる。
- ・雪害では電車がとまったり、家がこわれたりする。
- ・風水害では土砂くずれや浸水がおきる。
- ・津波災害では建物が流される。東日本大震災では多くの人が亡くなった。
- ・火山災害では家がこわれた。
- ・どの自然災害でも死者が出たり、多くの家に被害が出たりしている。

③【ポイント】日本のどのあたりで、どのような自然災害が発生しているのだろうか。

- ・地図上の□に自然災害の種類ごとに色をぬったり、マークを書いたりしよう。
- ・「主な火山」と「大きな地震の震源」の記号を確認しよう。
- ・どのあたりに、どのような自然災害が発生しているか、気づいたことを書こう。

- ・大きな地震の震源は太平洋に多いが、日本の各地で発生している。
- ・大雪は日本海の近い地方で発生している。日本海側は雪が多いから。
- ・主な火山は日本の各地にある。島にもあって噴火するかもしれない。
- ・風水害は西日本で起きているが、全国で台風の被害は起きている。
- ・日本は全国各地で自然災害が起きやすい。

④日本の自然災害の様子についてノートにまとめよう。考えたことも書こう。

©社会科資料読解ワークシート開発プロジェクト（東北学院大学 佐藤正寿，教育出版株式会社，株式会社教育同人社）2020

資料の読解

日本は世界でも自然災害の多い国である。大きな地震の発生率が高く、近年でも阪神大震災や東日本大震災が起きている。その他にも、台風による災害、火山災害、雪害というように、毎年のように自然災害が全国各地で起きている。この日本地図は、近年の自然災害について写真と被害状況の説明を加えて表したものである。また、主な火山や大きな地震の震源の分布も表している。

この地図を見ると、全国各地で様々な自然災害が起きていることがわかる。雪が多い地方では雪害が、台風の通り道になっているところは風水害が発生している。また、火山があるところでは火山災害が起きている。それらは国土の自然条件と関連しており、子どもたちに気づかせたい点である。なお、自然災害の被害にあった児童がいる場合には、説明や資料提示に配慮していくことが必要である。

読解の方法

- (1) 最初に、地図に書かれている自然災害名を確認し、書き込ませる。災害名を覚えさせるという点で重要である。
- (2) 続いて、その被害の大きさを写真から読み取らせる。どのように表現したらよいかわからない子どもがいる場合には、～の写真の説明文がヒントになることを伝えるようにする。
- (3) 次に、日本での自然災害の多い地域の傾向を考えさせる。そのために、教科書 P205 の「学びのてびき」に書かれているように自然災害の種類ごとにに色をぬらせたり、記号を書かせたりする。担任が色やマークを指示してもよいし、子どもが考えてもよい。他に火山や地震の震源の記号について確認したのち、傾向を考えさせる。
- (4) 発表や話し合いの際には、この資料のどこのことなのかわかるように地図を拡大投影し、指し示しながら行うようにさせたい。
- (5) 最後にノートにまとめる際には、自然災害に対する自分の考えを書かせ、次時以降にその考えを生かすようにする。